

犬の糞便中に認められた酵母様真菌 *Cyniclomyces guttulatus*に対する抗真菌剤の検討

清水 政宏¹, 網代 義彦¹, 斉藤 邦史²
斉藤 はるひ², 渡辺 隆之³, 斉藤 博⁴

¹ 網代動物病院, ² 斉藤動物病院, ³ エム・ビー・ネットワーク, ⁴ 生体機能研究所

キーワード: *Cyniclomyces guttulatus* (シニクロミセス・ガツツラタス), 犬, 下痢

近年, 一般診療において下痢を呈した犬の糞便中に酵母様真菌 *Cyniclomyces guttulatus* を認める機会が増加している。そこで今回我々は, 生体内での *C. guttulatus* に対する抗真菌剤の効果について検討した。

平成12年1月から平成14年7月まで, 網代動物病院に来院した, 下痢以外に臨床症状を伴わず, 糞便中に *C. guttulatus* を認めた犬13頭を対象に, 抗真菌剤の効果について検討した。犬種は, ゴールデンレトリバー1頭, ラブラドルレトリバー2頭, アメリカンコッカースパニエル5頭, シーズー2頭, ヨークシャテリア1頭, ミニチュアダックスフント1頭, ボルゾイ1頭であり, 年齢は5ヶ月~9歳であった。

使用薬剤は, 第1群: ケトコナゾール(ニゾラル) 5 mg/kg BID PO と第2群: ケトコナゾール 10 mg/kg BID PO とした。抗真菌剤の選択に関しては, *C. guttulatus* に対する *in vivo* での薬剤感受性試験により決定した(斉藤ら未発表)。*C. guttulatus* の有無は, 1献体あたり3プレートを鏡検し, 形態学的特徴をもって判定した。また薬剤投与14日後の糞便中に *C. guttulatus* を検出されなかった者を陰性とした。

ケトコナゾール 5 mg/kg 投与群は, 全4頭, 陽性4頭, 陰性0頭, 感受性は0%で, 下痢に関しては4頭全てにおいて治癒を認めた。ケトコナゾール 10 mg/kg 投与群は, 全9頭中陽性3頭, 陰性6頭, 感受性は67%で, 下痢に関しては9頭全てにおいて治癒を認めた。

ケトコナゾール 5 mg/kg 投与群において, 感受性を示さなかった理由として①薬用量が足りなかったこと②多頭飼育, 食糞行動による再感染の可能性が示唆された。ケトコナゾール 10 mg/kg 投与群において, 薬剤効果が低かった理由として①薬用量が足りなかったこと②飼育環境状態による再感染の可能性が示唆された。生体内の *C. guttulatus* に対する抗真菌剤の効果は *in vivo* での感受性試験同様の結果を認めなかった。今後, 薬用量および他の抗真菌剤等についての検討が必要である。*C. guttulatus* の菌数増加に伴い, 下痢の悪化を認めたが, 病原性については不明である。*C. guttulatus* の病原性, 感染ルート, 薬剤感受性を含め, 保菌動物への影響, 予防法など, これらの問題は全て将来の研究課題である。